

# Saijodan

## 広島城北高等学校サッカー一部OB会

広島市東区戸坂城山町 1-3 広島城北学園内 〒732-0015

TEL 082-229-0111 FAX 082-229-0112



### 49 回生 川本 大喜

はじめまして。49 回生の川本大喜です。この度宮本先生よりお話を頂き、OB 会報誌を書かせていただくこととなりました。このような機会を下さった先生方に感謝するとともに、大変光栄に思っています。

まず自身の自己紹介と近況報告をさせていただきます。現在私は明治大学情報コミュニケーション学部在籍しています。よく「何をしている学部なの？」とか「パソコン？」などと聞かれるのですが、主に社会科学全般を広く学んでおり、その中でも特にメディアとコミュニケーションについて研究している学部です。私はその中で組織論、特にリーダーシップについて深く学んでいます。私がなぜリーダーシップについて学びたいと思ったかという点、それには最上段での経験が影響しています。私は高校時代副キャプテンを務めさせていただきました。しかし私自身決断力や人前で話す能力といったものには自信が持てておらず、自らの力不足を感じることも多々あったからです。そうした経験からリーダーシップというものの自体に興味を持ち、どのようなコミュニケーションや姿勢によってそれがなされるのかを理論的に考えてみたいと感じたためです。これからの活動として企業の方にインタビュー調査などを行い、その組織の問題を明らかにするといった取り組みをする予定です。

さて勉強の話はこれくらいにします。私は今年生なので、来年度には就職活動が控えています。最近はそのに向けて自分がどんな職業に就きたいのかを考えて過っています。まだまだ漠然とはしていますが、そんな中で一つ自分の中に基準があることに気づきました。それは「人の気持ちを動かす」ということです。これは宮本先生が日頃からおっしゃっていたことでもあると思います。その考えから派生して今はライブ・コンサートに関わる職業に強く関心を持っています。それは多くの人間の気持ちを同時に動かすことが出来るものであるからです。もちろんそれは容易なことではなく、多くの人間の労力、時間、お金がかかって初めて成しうるものです。しかしそこから生まれる興奮や感動といったものは、ライブという空間でしか味わえないものだと思います。またこれはサッカーをはじめとする多くの

スポーツにも通じるものがあると思います。私はこの空間を一人でもたくさんの人に体感して欲しいと思っっているのです、その魅力を伝える仕事に就ければと考えています。

こうして考えてみると、自分の考えの根底には最上段で学んだことが大きく影響していると思います。そうした自分にとって大切な場所を「人生をかけて守る」とおっしゃってくださる宮本先生をはじめとした先生方に感謝するとともに、自らが置かれた環境に幸せを感じながら日々頑張りたいと思っております。イギリスの EU 離脱や熊本地震、大雨など一寸先は闇というような世界ですが、そんな世界だからこそ自分の決断に後悔することなく生きていければと思います。最後となりますが、拙い文章にお付き合いいただき、ありがとうございます。

### 47 回生 岡 大樹

こんにちは。47 回生の岡大樹と申します。今年度の 4 月から、外部コーチとして最上段に帰ってきました。早いもので、卒業してから 5 年が経とうとしております。

簡単に近況報告ですが、私は今年、大学院に進学しました。去年までは大学のサッカー部の活動で忙しい毎日でしたが、今年度に入ってから少しだけ時間にも余裕ができたので、外部コーチとして関わらせて頂いております。帰ってきた当初は、フィジカル強化を目的としたトレーニング、名付けて「岡トレ」を行っていましたが、最近では GK を中心に見させてもらっています。

私は、昨年の初蹴り後に行われた懇親会で、最上段に帰って来ることを決断しました。当時は大学院の進学や、就職活動、社会人サッカーでの現役続行、他校での指導などなど、様々なことにチャレンジしたいと考えていました。しかし、OB の皆さんが話してくださる多くの最上段エピソードを聞きながら、こんなに暖かい居場所は他にないかと確信し、最上段を大切にしたいと感じました。

さて、最上段に帰ってきてから嬉しいことが 2 つありました。1 つは皆様もご存知の通り、県総体ベスト 8。見ることはできませんでしたが、高 3 生の意地と団結の一戦。これだからサッカーはやめられませんね。改めて熱い気持ちを思い出しました。もう 1 つは、平和祈念国際ユースサッカー大会のスタッフとして関わらせて頂いたことです。

「恩返しをして来い」と宮本先生に背中を押され、高体連の先生方にも「おかえり」と歓迎して頂き、普通ではできないような、大変ありがたい貴重な経験でした。県選抜は、勝利することはできませんでしたが、直前合宿から大会終了までサッカーに費やした濃い時間は、ものすごく勉強になりました。もっとサッカーを勉強して、もっと引き出しを増やし、指導者として成長していきたいと強く感じています。

現在のチームについてですが、選手権を経験し、新人戦を目前に控えた選手たちは、日に日に漢の顔になっていきます。しかし、もっと強く、もっと上手く、もっと上を目指していけると信じています。OB 会の皆様に良い報告ができるよう頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。最後になりましたが、コーチとして迎え入れてくださった、さらにこのような機会を与えてくださった宮本先生をはじめスタッフの皆様、心より感謝申し上げます。

まだまだ夢半ばの広島城北サッカー部が、より輝けるように頑張っていきます。これからもどうぞよろしく願っています。

## 2017 初蹴りのお知らせ

初冬の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

毎年恒例の“初蹴り”を開催いたします。

『最上段』で懐かしい仲間たちとともに、笑顔で 1 年をスタートしましょう！

また、元旦には広島城北サッカー部 HP に、宮本監督の決意表明が掲載されます。ご期待ください！

<http://saijodan.com/>

日時 2017 年 1 月 3 日 (火) 11:00 集合

場所 広島城北学園 “最上段グラウンド”

広島城北高校サッカー一部OB会

会長 吉川 英 司

48 回生 藤井 達也

48 回生の藤井達也です。今年も一年間外  
部コーチをさせていただき、ありがとうございます。  
ございました。今年の初蹴りで乾杯の挨拶を  
仰せつかった際にお話した、現役チームに  
関わらせていただくのありがたさを感じ  
ながら、大学生活最後の年も大変充実し  
た日々を送ることができています。

まず、近況報告をさせていただきます。  
今年の夏に受けた小学校の教員採用試験に  
合格し、来年から広島市で教員をすること  
になりました。教員採用試験までの半年間  
は苦手な勉強漬けの日々でしたが、周りの  
友達や先生方に支えていただき、いい結果  
を得ることができました。残りの大学生生活  
は最上段で成長しながら、卒業論文に追わ  
れる日々になると思いますが、全力で楽し  
んでいきたいと思えます。

次に、今年一年の広島城北サッカークラ  
ブを振り返りたいと思います。今年、高  
校生が総体で久しぶりのベスト8、中学生  
が新人戦市大会優勝、高校生の新人戦、総  
体、選手権の結果で決まる年間ポイントも  
県内8位と明るい話題が昨年よりも多かつ  
たと思います。高校のベスト8は、私自身  
現役時代もコーチ時代も経験したことがあ  
りませんでした。ですから準々決勝当日、  
私が中学生の頃に高校生が選手権の準々決  
勝をプレーする姿を、あこがれの目で見て  
いたのを思い出しました。昔のことを思い  
返してみると、中学生時代の私が自分の高  
校サッカーをイメージするときは、いつも  
第一球技場でベスト4をかけて戦う場面で  
した。それはあの日、準々決勝で戦う先輩  
方を見ていたことが理由です。自分たちの  
代ではすべてベスト16で終わり、とても残  
念でしたが、広島城北では恒例の夏合宿や  
初蹴りで自分たちが見ていた先輩方を見る  
ことでもいつも先輩を超えようという話にな  
っていました。OBが積極的に現役チーム  
に関わることができ、そのつながりを大切  
にする広島城北にとって、自分自身が実際

に経験した、この中学と高校のつながりや  
一体感を大切にしていきたい。そして高校  
生のトップチームが今回のように準々決勝  
でベスト4をかけて戦うことを連続してや  
っていくことが、もう一つ上の舞台で戦う  
ためには必要だと、改めて気づきました。  
2017年に入るとすぐに新人戦です。  
まずは準々決勝まで進み、今年の総体の結  
果を越えることを目標に頑張ります。また  
自分が現役の時、準々決勝の舞台に届き  
ませんでした。今外部コーチとしてリベ  
ンジできることに感謝し、前向きに挑戦し  
ていきたいと思えます。

最後になりましたが、今年一年間は最上  
段や試合会場以外でも多くのOBの方と出  
会うことができました。卒業してからも世  
代を越えてOBの方とかかわり続けること  
ができることは恵まれていることだと感じ  
ます。来年も広島城北サッカークラブを盛  
り上げていきましょう！これからもよろし  
くお願いします。

24 回生 岩井 竜彦

みなさんこんにちは。24 回生の岩井竜彦  
です。早いもので、広島城北で教員として  
勤務するようになって8年、中学生の指導  
に軸足を移して4年目となりました。そし  
てこの度、広島市中学校新人サッカー大会  
において、優勝することができました。市  
大会での優勝は、岡GKコーチ(広島大学・  
47 回生)の代が選手権大会を制して以来、  
2度目となります。

今年の大会は、昨年涙を飲んだ準々決勝  
(vs 祇園中)をなんとか突破し、翌日の準  
決勝(vs 高取北中)に臨みました。前評判  
の高かった同中に対して劣勢を強いられま  
したが、持ち前の粘り強さを発揮し、なん  
とか1対0で決勝に駒を進めることができ  
ました。約2時間後に迎えた決勝戦の相手  
は、ここまで3大会(新人戦・選手権・総  
体)連続で広島市を制している、強豪・庚午

中でした。序盤から押し込まれる展開が続  
きましたが、今大会、試合を重ねることに  
力強さと一体感を増していった広島城北  
は、ヘディングの競り合いとセカンドポ  
ルの奪取で少しずつ優位に立ち、後半2得  
点を挙げることに成功しました。そして最  
後まで足を止めることなく走り続け、その  
まま無失点に抑えて試合終了のホイッスル  
を聴くことができました。広島サッカー界  
の聖地である第一球技場で喜ぶ選手達、感  
涙にむせぶ保護者の皆様方、まさに広島城  
北の勝利でした。

もちろんこの結果は、選手のがんばりな  
くしては語れません。ですが、このチーム  
の主力である中学2年生には、昨年から試  
合に出ている子が多くいます。したがって  
比較的経験値の高いチームであると言えま  
す。つまり今回の優勝は、2年生を引っ張  
って鍛えてくれた現3年生のおかげといっ  
ても過言ではありません。そしてもう一つ、  
私の心に染みる一言がありました。

今まで、数え切れないほど負けてきた。

先日、高校保護者会にて優勝の報告をさ  
せていただいた際の、高山先生の言葉です。  
我々が大切にしている心が、この一言に凝  
縮されています。今の選手達は、過去の敗  
戦を当然知りません。ですが、間違いなく  
彼らは数多くの先輩達の悔しさや、それ  
も歯を食いしばってチャレンジし続けよう  
とした気持ちの上に立たせてもらっていま  
す。いい時も悪い時も、ひたむきに組み  
み、最後まであきらめずに走り続ける広島  
城北らしさ。それを選手達自身が、自ら  
感じ取れるように伝えていくのが、私たち  
最上段に立つ者の大切な使命だと思ってい  
ます。

年が明ければ高校も新人戦がスタートし  
ます。中学生にはこれまで以上の取り組み  
が求められます。こうやって大切な最上段  
に立たせてもらえることに感謝しつつ、こ  
れからも生徒に負けないようにひたむきに  
前に進んでいくつもりです。

お礼とお願い

平素から、現役チームの活動に多大なるご支援・ご協力を賜りまして、誠にありが  
とうございます。  
おかげさまで、現在チームは県リーグ(アドバンスリーグ)にトップ・ライノスの  
2チームが出場し、トップチームは2部、ライノスは4部リーグに所属し、公式戦に  
出場できる喜びを感じながら、練習に励んでいます。  
チームの活動に伴い、必要な経費も増加しております。そこで今一度のOB会費徴  
収をお願いしたいと存じます。同封の振込用紙にて、一口5,000円よりお願いいたし  
ます。  
何かと出費の多い時期とは存じますが、何卒ご協力くださいますよう、よろしくお  
願い申し上げます。

広島城北サッカー一部“BANTO” 岩井 竜彦 (24 回生)

OBの皆様、慌ただしくお忙しい時期だ  
とは思いますが、お身体くれぐれもご自愛  
いただき、良い年をお迎えください。そし  
て1月3日の初蹴りで、たくさんの笑顔に  
お会いできることを、心から楽しみにして  
おります。

---

※ご家族のみなさんへ：ご本人が、ご入学・ご就職・ご結婚などで不在の場合は、お手数ですが、ご本人までご連絡ください。